

学校運営協議会(部会なし) 議事録

校名	府立難波支援学校
校長名	室田 澄江

開催日時	令和6年12月6日(金)13:30~14:45
開催場所	府立難波支援学校 校長室
出席者(委員)	澤村 会長、上宮 副会長、 谷口 委員、鈴木 委員、内田 委員、藪根 委員
出席者(学校)	室田 校長、錦織 教頭、石原 教頭、植松 首席、木村 事務長
傍聴者	0名
協議資料	令和6年度 学校経営計画及び学校評価(様式資料を含む)、 「人権教育の取組みについて」、「教科書について」、「学部間交流について」
備考	

議題等(次第順)

- ・学校経営計画について
- ・その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

○令和6年度学校経営計画について、各委員から以下の意見が出された。

(シラバスの連続性について)

- ・シラバスの連続性についての説明があったが、個別指導計画の連続性に関する取り組みについても興味がある。
- ・小学部から高等部まで連続性(つながり)を持たせるとのことだが、児童生徒は一人ひとり違うのでその子に合わせた運用を行う必要がある。
- ・児童生徒一人ひとりについて目指す児童生徒像を教員が具体的にイメージしながら進めていくことが重要である。
- ・保護者も授業見学などで授業をみて、内容についていろいろな意見があると思う。そういった意見を踏まえながら、メインの教員とSTでいかに授業を進めていくかが支援学校の生命線だと思う。
- ・本校だけでなく学校現場では総じて教員同士の意見交換の機会が減っているのでは、継続性という視点を意図的に計画に入れているのは非常に有意義なことだと思う。

(防災等について)

- ・PTA役員、地域の代表として防災訓練に参加したが、子どもたちはパニックになることもなく、円滑に避難行動ができていたと思う。日ごろの指導に感謝したい。
- ・隣接する第5保育所とも合同で防災訓練をすることも必要ではないか。外部の人が入ってくるという機会も経験しておいた方がよいと思う。
- ・災害時、本校は地域の方々の避難場所となっているが、この地域では戸建て住宅が増えつつあり、外国籍の方も増加傾向にある。学校の負担が増えると思うが、地域も協力させていただくので、対応方よろしくをお願いします。
- ・外国籍の方が増えると日本語での支援、誘導等が難しい場合もあると思うが、そのような時は、本人や保護者が持っている携帯電話が一番有益なツールになると思う。
- ・本人等の携帯電話には本人が日本語を学習等するために使っているアプリが搭載されており、それを使っのコミュニケーションが非常に役に立つと思う。
- ・防災に関する知識等は日常生活を送る中で忘れてしまいがちなので、訓練を重ねることで繰り返し周知を図っていくことが大事であると思う。
- ・災害時は人数が大幅に増えると思うので、災害用物資の備蓄や災害対応などは常に考えておいてほしい。

(教科書について)

- ・外国籍の子どもが増えているが、教科書もその子が何年間日本にいるのかといったことも考える必要があるなど、難しい側面もある。
- ・他校の話だが、とりわけ小学部では障害の程度が軽い児童が増えたり、地域の小学校で採択された教科書が使えるような児童が転入学してくる事例もあり、教科書の採択は本当に多様化していると感じる。

次の会議日程

日時	令和 7年 2月中旬から3月上旬頃
会場	難波支援学校(具体的な会議室は未定)